

○講座内容

開催日時	講座テーマ	講座内容	受講対象/定員
8月2日(水) 13:00~14:30 受講料：無料	道徳教育(道徳科)の評価に関わる基本的な考え方について 講師：目黒恒夫 人間心理学科教授	平成27年3月『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』の一部改正によって道徳は「特別の教科」として位置づけられ、これら学習指導要領は小学校では平成30年4月から、中学校では平成31年4月から施行されることになりました。本講座では、これまでの道徳教育の評価の変遷を辿るとともに、「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」の報告書『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について』(平成28年7月)の内容を中心に、道徳教育(道徳科)の評価に関わる基本的な考え方について理解を深めます。	小学校・中学校・高等学校の講師及び若年層の教職員、教職課程履修者/30名
8月2日(水) 15:00~16:30 受講料：無料	「公民(倫理)」教育による「共生」意識の涵養 講師：箭内任 人間心理学科教授	高等学校「公民科」の学習指導要領では「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」ことが目標とされています。その中で、科目「倫理」では「他者と共に生きる主体としての自己の確立」を促進し「良識ある公民として必要な能力と態度」の涵養が目標とされています。文部科学省が作成した解説書などで説明されている内容を理解するには、理論的な背景も十分に踏まえていなければなりません。この講座では、「公民(倫理)」教育における「共生」意識の涵養を、自己、他者、社会という三つを基本とするトリアーデ構造から理解します。	高等学校(公民科[現代社会・倫理])の講師及び若年層の教職員、教職課程履修者/30名
8月3日(木) 13:00~14:30 受講料：無料	身近な題材で経済の動きを説明する(経済学的思考の実践) 講師：高橋 真 現代社会学科教授	小学校社会科、中学校社会科、そして高等学校公民科のそれぞれの教科科目の中に経済を取り扱う学習内容が含まれています。生活場面の中から経済にかかわる題材を使って、その経済学の理論的な説明を行います。人間の生活において経済がいかに身近で、しかも理論的な説明が可能なのかを知ることで、それぞれの授業への応用が可能になると思います。	小学校・中学校・高等学校の講師及び若年層の教職員/30名
8月4日(金) 13:00~14:30 15:00~16:30 受講料：無料	楽しく『倫理』を学ぶために(前半・後半) 講師：太田健児 人間心理学科教授	『倫理』『現代社会』の思想史・文化論領域の教材研究は難しく、グループワークを基礎としたテーマ学習やディスカッションなどによる授業設計を多用することも多いのではないかと予想します。しかし、倫理も数学や物理、あるいは経済学と同様に、各哲学者の思想・キーワードなどの厳密な定義・定式が存在します。教師はまずこれらをしっかり把握し、コンパクトにまとめ、生徒に分かり易く説明できなければなりません。このような土台があって初めてテーマ学習やディスカッションを取り入れたPBLやアクティブラーニングが機能し、生徒が楽しく学べる倫理科目になるわけです。それゆえ、現行の教科書の難解・不明箇所の解説、参考文献の紹介などを行い、教材研究の基礎を固めていきます。	高等学校の講師及び若年層の教職員、教職課程履修者/30名
8月4日(金) 13:00~14:30 15:00~16:30 受講料：無料	文学作品の教材研究・教材化から授業に向けて(前半・後半) — 言語活動から学習課題をどう設定するか 講師：田村嘉勝 子ども学科教授	講座では小学校国語、中学校国語教科書掲載の文学作品を取り上げます。学習者が楽しく授業に参加するためには方法的にどのような読みによる教材研究・教材化をすればいいのかをみんなで考えたいと思います。教材文を俗にいう解釈の相違としてとらえるべきなのか、あるいは作者の思想を求めるべきなのか(この時作者とは誰をさすのか)、読者とかテキスト、それとも思い切って教材文を構造的・立体的にとらえてみる、なんてできたら教材研究をされていて学習者の喜ぶ顔が思い浮かぶのではありませんか。また、学習課題は学習者による言語活動によって決めるとはいうものの、実態は先生が決めているのではありませんか。まずは、先生方が教材文を楽しく読む必要があります。参加者全員で、それこそ言語活動をもとに深めていきませんか。	小学校・中学校国語科及び若年層の教職員、教職課程履修者/30名